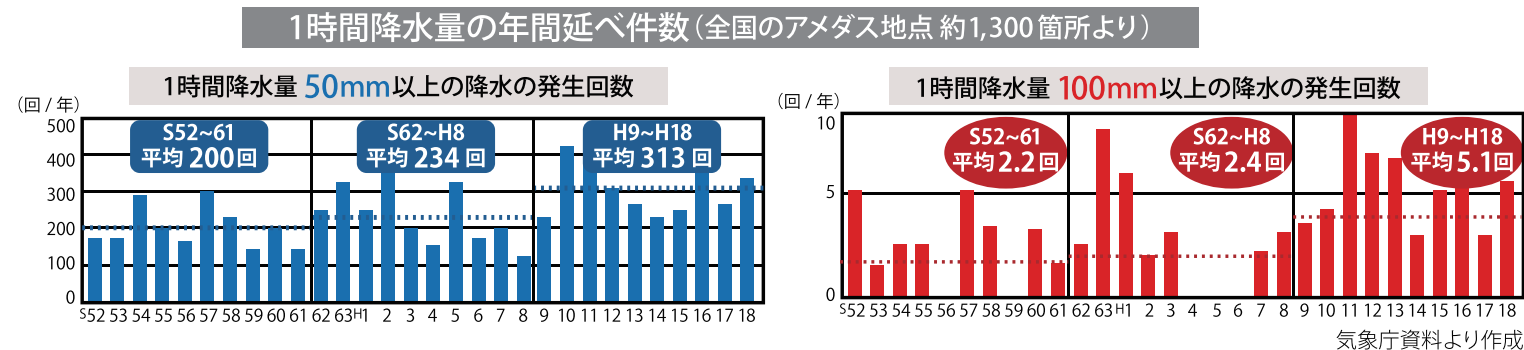


1 内水はん濫とは

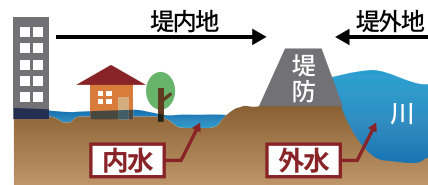
全国的な豪雨の傾向

気候変動の影響等により、全国で記録的な豪雨が頻発しています。また、市街化の進行により雨水の流れ出る量が増え、浸水の危険性が高まっています。



内水被害発生メカニズム

降雨により市街地に溜まった水を内水、これに対して川を流れる水を外水といいます。内水被害は市街地に降った雨が川に排水できずにたまって発生します。



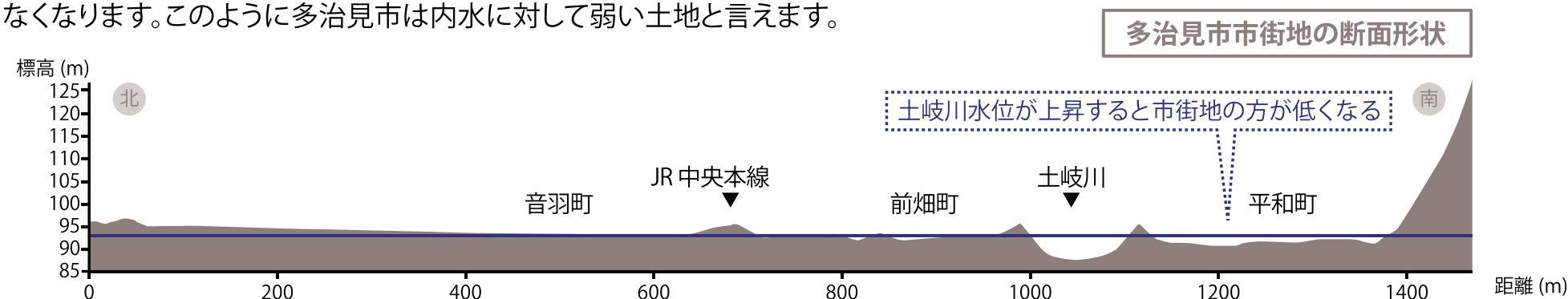
平成23年台風15号豪雨災害

平成23年台風15号豪雨により、土岐川の水位が上昇し、市街地の広い範囲で浸水が発生しました。最大1時間降水量は76mmに達し、床上浸水439戸、床上浸水183戸の被害が発生しました。



多治見市の地形的特徴

多治見市は周辺を山や丘陵に囲まれた盆地形状であり、土岐川とその支川沿いの平地に市街地が広がります。洪水時は河川水位が市街地よりも高くなり、市街地に溜まった雨水が排水できなくなります。このように多治見市は内水に対して弱い土地と言えます。



2 ハザードマップの作成条件と想定災害

ハザードマップの作成条件

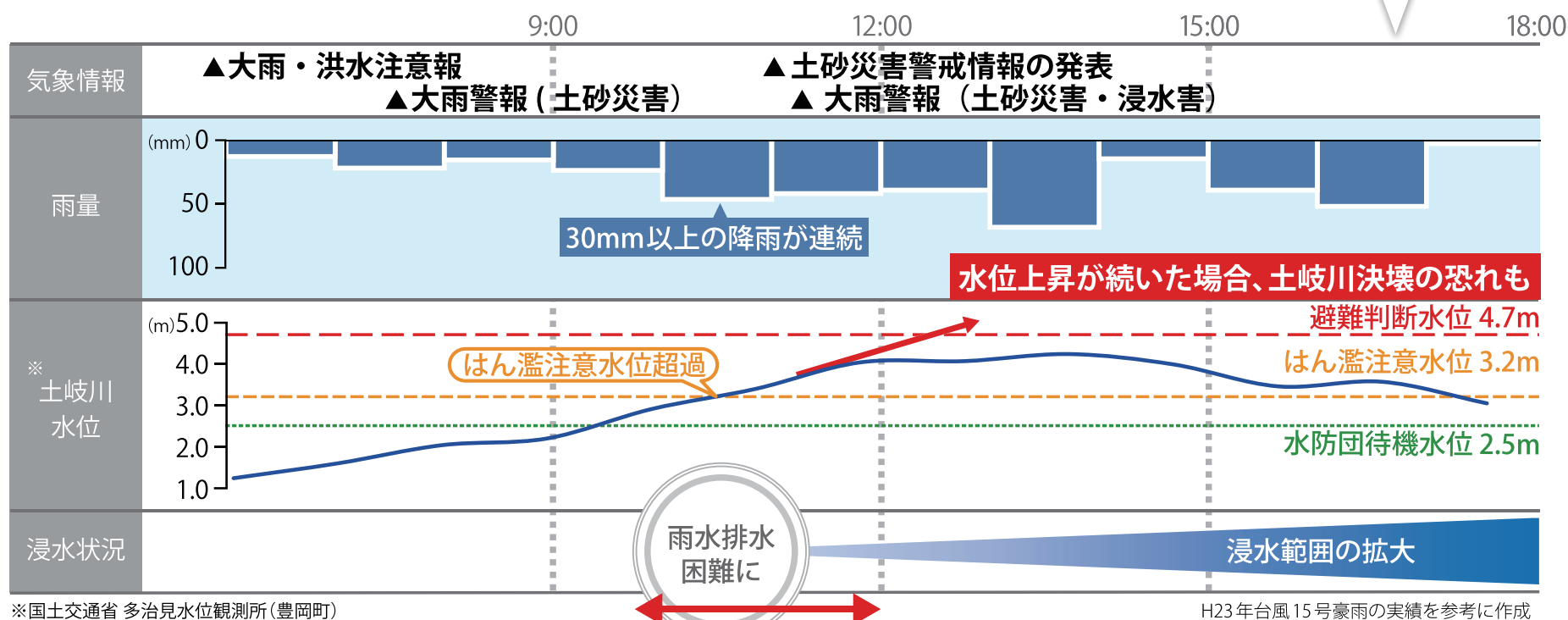
これまでで最大の被害をもたらした平成23年台風15号豪雨の降雨量、河川水位等をハザードマップの解析条件としています。市内では、10時から17時までの7時間で300mmを超える降雨量を記録し、11時頃から18時頃まで土岐川の水位がはん濫注意水位を上回りました。



！土岐川水位と内水被害の関係性を理解しておきましょう。

想定される災害シナリオ

多治見市では概ね30mm/h以上の降雨で浸水被害が発生しており、土岐川がはん濫注意水位に近づくと市街地の雨水排水ができなくなり、一気に浸水が拡大する可能性があります。



逃げ時(土岐川の避難判断水位超過が予想される場合は、降雨による浸水発生前に外水はん濫への対応が必要)

3 災害時の避難について

避難情報の発表

水害の発生が予想される場合は、必要な地域に降雨、河川の水位、異常現象、避難の呼びかけ等の情報をお知らせします。ただし、雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じた場合は自主的な避難が必要です。避難所開設前に自主避難をする場合は、事前に企画防災課へお電話ください。



避難情報の種類	発表の条件	とるべき行動
避難指示	避難勧告よりも状況が悪化し、緊急に避難が必要な場合	直ちに避難を完了
避難勧告	危険が迫っている場合	速やかに避難を開始
避難準備情報	高齢の方や障害のある方など、避難に時間を要する方に避難を促す場合	避難に時間を要する方は避難を開始
注意喚起のための情報	水害が発生するおそれがある場合	自主避難の検討

避難時の注意点

豪雨災害時には自宅から避難先までの経路は普段とまったく違う状況になります。できるだけ、二人以上で行動し、隣近所の人と協力して避難してください。

① 履物

- 長靴は水が入ると歩きにくい
- 紐付き運動靴がおすすめ



② 荷物

- 非常持ち出し品は背負う
- 手は自由に



③ 地下室

- 地下等は浸水すると脱出できないので要注意!



④ 地下道

- 地下道は冠水の恐れがあり危険!



⑤ 転落防止

- 浸水時は側溝等が見えない
- 棒等で足元を確認しながら歩く!



⑥ 避難の原則

- 避難は徒歩で!
- 車の避難は避けて



要援護者への支援

家族や隣近所に乳幼児や高齢者、障がいのある方など避難に時間のかかる方がいるときは積極的な情報収集を行い、早めの避難を心がけましょう。避難準備情報が発令された場合、避難を開始してください。



周囲が浸水した場合

浸水時の歩行は大変危険です。無理な自宅外避難はやめ、建物の高層階へ避難することも、身を守るための一つの方法です。(ただし、土岐川はん濫時は安全が確保できない場合もあります)



4 日頃からの準備と心得

事前の準備を心がけよう

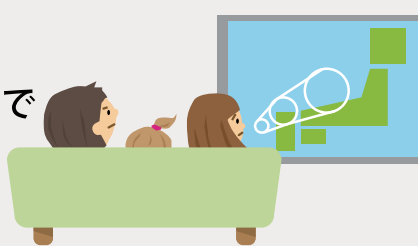
○道路の側溝や雨水ますの点検・清掃

- 側溝が詰まると道路冠水の原因となるので、清掃する
- 雨水ますの上にブロックなどを置かないように



○気象情報の収集

- テレビやラジオなどで天気予報に注意する



○土のうの準備

- 土のうは大雨が予想される場合、事前に準備しておく



○駐車場の点検

- 駐車場が浸水しないか点検
- 大雨の前に車を高い土地へ避難



非常持出品を備えておこう

普段から最小限の非常持ち出し品を用意し、リュックサックなどに入れておきましょう。また、通帳や健康保険証等の大事なものは浸水しにくい2階等に保管しましょう。



【参考】警報等について

気象庁では以下の注意報や警報等を発表し、注意や警戒を呼びかけています。

種類	注意喚起及び警告の内容
注意報	大雨による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災害として、浸水災害や土砂災害などがあげられます。
注意報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害があげられます。
警報	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な災害として、重大な浸水災害や重大な土砂災害などがあげられます。
警報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害があげられます。
特別警報	警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発表し、最大限の警戒を呼びかけます。
記録的短時間大雨情報	現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するものです。

※注意報・警報の決定については、時間雨量を基本に河川の流域の状態や土地の状態を指数化したものを使用しています。

気象庁資料に基づき作成